

日交研シリーズ A-733
平成 29 年度共同研究プロジェクト
「長寿社会を支える交通ビジョンの作成」
刊行：2018 年 12 月

長寿社会を支える交通ビジョン
Transport Vision for Sustainable longevity Society

主査：鹿島 茂（中央大学理工学部教授）
Shigeru KASHIMA

要 旨

本研究は現在出現しつつある高齢者が急増している時代、そして高齢者の増加が落ち着き年齢構成が釣り鐘状になる時代への変化の時代に、高齢者が自らの希望に従って移動する選択肢を持つことが実現可能な交通の姿とそのために必要な方策を描くことを試みた。具体的には①高齢者の交通行動の特性の把握、②高齢者を対象とした交通対策の日本・韓国の比較、③長寿社会での交通の姿の作成の3点について検討を進め、その成果を各章にまとめた。

第1章では、高齢者の交通行動を見る場合、高齢者を1グループとして見るのではなく、年齢、性別、世代、で分けることが重要であること、交通行動は、少なくとも外出率、発生トリップ数、目的構成の3側面から見ていくことが重要であること、交通行動の変化は、就業の有無、健康の状態、世代（働くことに対する考え方等を表すと考えた）に影響を受けていると考えられることを、データを用いて示した。

第2章では、日本と韓国の高齢者に対する交通対策の比較を、制度・法律、施策・対策の2面から行いその差を明らかにした。差は、韓国の高齢化は、日本と比較し水準では15年程度の差があるものの、進展速度は日本より早いこと、韓国での高齢化による交通問題は、現在は地方の農村部を中心に発生していること、このためもあり国民に対し国として提供すべき交通サービスの水準についての議論がなされているという高齢者の交通を取り巻く状況の違いが大きく影響していると考えられることを示した。

第3章では、長寿社会での交通の姿として考えられる姿を地域特性に対応して複数作成し、これらの実現に必要な費用等の試算に加え、制度の変更等の必要性について整理した。さらに現在の日本の基礎自治体を対象に作成した長寿社会での交通対策を導入しようとした時の交通計画の作成手順、作成の際の新たな権益の提案、技術開発の際の基本的考え方について示した。

今後の課題としては、成果を有用なものにしていくために基礎自治体をどのような属性で分類しておくことが適切であるのか、および具体的な都市（基礎自治体）について適切と考えられる交通対策とその実現のための費用等について検討することがあげられる。

キーワード：長寿社会、高齢者交通、国際比較（韓国）

Keywords : Longevity Society, Transportation for the Elderly, International Comparison(Rep. Korea)